

令和 7 年度 金城資料館事業報告

【展示関係】

- ◎ 民俗資料館（開館 52 周年）
 - ・ 常設展「石見の山村生産用具展」
 - ・ 常設展「石見の山村生活用具展」
- ◎ 歴史民俗資料館（開館 47 周年）
 - ・ 常設展「石見のたたら製鉄」(1 階展示室)
 - ・ 常設展「チベット巡礼探検家能海寛展」(1 階展示室)
 - ・ 企画展「波佐まるとミュージアム展」(歴史館 2 階展示室)

会期 2025 年 6 月 1 日(日) ～ 2025 年 12 月 28 日(日)

※ 来館者へ「波佐まると博物館」の推進を図るためスタンプラリー帳を交付した。



【広報関係】

「かなぎ民俗」の発行。文化財啓蒙啓発の発信を図る。

7 回（86 号～92 号）。

企画展用「波佐まるとミュージアム展」のパンフレット作成。



【文化財保護活動】

- ◎ 文化財防火デー金城資料館自衛消防隊員による「消防総合訓練」を実施。併せて、AED を用いた救命救急講習会を実施。

実施日 2026 年 1 月 24 日（土） 10:00 ～ 12:00

【民俗資料回想セラピー】

- ◎ 福祉施設、高齢者クラブと連携して、認知症の予防抑制に「民俗資料回想セラピー」を推進する。

【資料整備】

諸職用具の市指定文化財候補書類データ完了答申待ち。



【客員研究員制度】

敦煌民族研究所員 根敦 阿斯尔氏（継続）

雲南民族研究所研究員(教授) 何大勇氏(新規)

【出前講座】

- ◎ 金城民俗資料館での民具学習実施。

島根県立大学から(6 名) 視察受入、9 月 24 日(水)。

金城中学校 2 年生(6 名) ふるさと学習受入、6 月 10 日（火）



【日常管理】

来観者の傷害保険の加入。

館庭の草刈清掃（8 回）実施。

積雪期の除雪作業（3 回）実施。



企画展「波佐まるごとミュージアム展」

会 期	令和 7 年 6 月 1 日(日)～12 月 2 8 日(日) 9:00～17:00
開館日	土・日曜日 (土・日以外を希望の方は、事前にご予約下さい)
会 場	浜田市金城歴史民俗資料館 浜田市金城町波佐イ 426-1
予約先	電話 090-4697-2818

金城町波佐地区の古代史の起源は定かではないものの最近の相次ぐ遺跡の発見で次第に解明されてきました。七渡瀬Ⅱ遺跡(ときわ会館)では、旧石器時代(約1万年前)のチャートという石片が見つかったことから、波佐地区でも人が住んでいたことが半明しました。

縄文時代は狩猟活動が盛んだったことが伺われるが、後期(約4,000年前)・晩期(約3,000年前)の長田郷遺跡の性格から見ると、この頃から定住化も進んでいたものと考えられます。

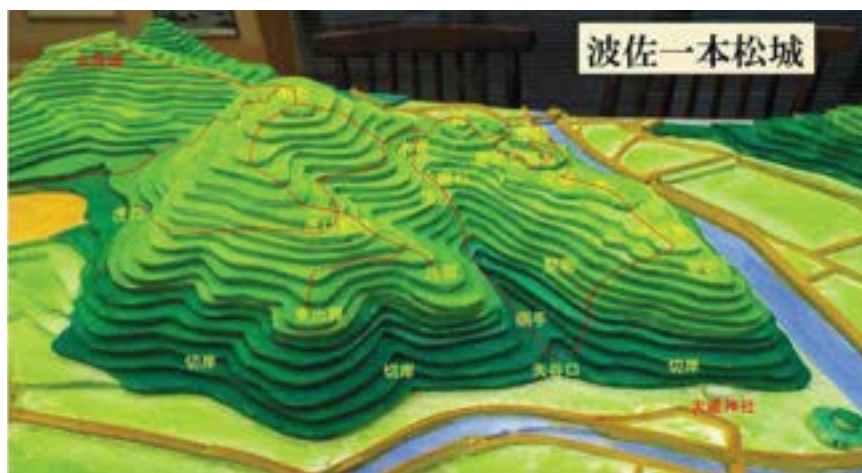
長田郷遺跡は大佐山の麓の盆地の低地に立地し、しかも水害に遭遇しにくい場所が選ばれており、周辺の弥生時代の遺跡であるナゴタ遺跡、七渡瀬Ⅰ・Ⅱ遺跡などの関連や遠賀川式土器の出土品を見ると原始典耕へ移行していく過程が理解されます。また、土垂(どすい)の出土品から考えると周布川に沿いそ上したサケ。マスを捕獲しての漁労生活を偲ばせてくれます。石鏃(せきぞく)の出土品から見ると隠岐島の黒曜石を原石としたものと、また、広島県の冠山(吉和村)の安山岩(サヌカイト)を原石としたものがそれぞれ発見されています。

弥生時代の遺跡は、長田郷遺跡、七渡瀬Ⅰ・Ⅱ遺跡などがありますが、特に七渡瀬Ⅱ遺跡は弥生・古墳・奈良時代の住居跡が出土しております。この時代の出土した土器によると近畿地方、北部九州の各地の土器生産地の遺跡との関連が判ります。このことから縄文・弥生時代の交易範囲が西日本一帯広い交流がなされていたことが裏付けられます。

古墳時代前期には長田の千年比丘1号墳が造営され、同時代の住居跡が七渡瀬Ⅱ遺跡にも発見され、生活基盤とお墓がセットで発見された例は珍しいことです。

奈良時代に入ると、この地域は久佐郷に所属し、「長田」という地名が現れてきます。平安時代には「長田別府」、鎌倉時代には「長田保」という庄園としての名前がありました。この時代の名残として県境の傍示峠という名称が現存しています。

長田別府の時代において従五位下・河野監物と称する神祇官が大歳神社に派遣されていたが貞観13年(872)4月3日付けで従五位下大歳神「従五位上」ヲ授(三代貫録)。延喜22年(922)旧那賀郡11座の中にある大歳神社(延喜式神名帳による)は亀遊山波佐一本松城の東北方向に位置する大歳神社を鬼門除けの為に宮地谷から遷宮した。大歳神社の東側は大明神原と称し広大な神田があった。



永萬元年(1165)6月の永萬文書「神祇官諸年貢注文」によると「大歳社黒金」に見えるように大歳神社は「たたら鉄」を年貢として産出していたことが伺える。波佐・長田は古来優秀な真砂砂鉄を産出し、たたら製鉄遺跡が密集している土地柄であった。このために利権をめぐる戦火が繰り返されてきた。

大歳神社の正面東側は長田川を挟んで七渡瀬Ⅰ・Ⅱ遺跡があり、七渡瀬遺跡は小字が「細田」という地名で、佐竹屋、竹三屋、ときわ会館、民俗資料館、歴史民俗資料館などの全体で一町歩ばかりの広さがあり、国道の東側には古来、神祇官の館跡もあったという。また、「波佐」という名称が古文書に現れるのが鎌倉末期で嘉暦元年(1326)12月の「石見永安別符以下地頭職分文」(吉川家文書)、建武3年(1336)8月25日(萩藩関閥録第3巻周布吉兵衛文書)及び慶長7年(1602)9月22日「石州那賀郡波佐村御縄打水帳」(波佐庄屋文書)などに名称を見ることができる。

波佐一本松城は河野氏の居城と古来伝承されていた。平安末からの築城という伝承もあるが、城郭の遺跡の面から見ると主郭(1,000㎡)を中心とした4つの郭、腰郭、畝状空堀群、堀切、切り通し、堅堀、横矢掛、武者溜り、礮石置き場、段切、水堀、石垣などがあり、防御を主とした守りの城郭である。南方尾根続きに水見城跡、北東方向にある花城跡は綱長い2つの郭と4段の郭、堀切、空堀などがあり、別名中谷城、姫ノ城ともいい、元亀元年(1570)に落城した。

波佐常磐山八幡宮は文治元年(1185)に佐々木高綱によって長田の大井谷八幡岩より入幡の神を遷宮し佐々木祖霊神を合祀したといわれる。

月山富田城主尼子経久公によって京都。東福寺の明海和尚をして永正年間より布教させ、長男政久の戦死を弔い天文2年(1533)に法華経3,000部などを奉納し、永昌寺(当時は永正寺であつた)を開山した。この頃、尼子経久公によって常磐山八幡宮の再建と大舞人8人と小舞人16人の宮座制が導入された。

この常磐山には天然性の大杉5株(村齢約1,000年)の県指定天然記念物や、県指定「みんなで守る郷土の自然地域「常磐のカシ林」には遊歩道が設置され自然散策に適している。

また、亀谷原の笠松山の麓にある速田神社は安芸国の速谷神社が毛利・尼子の戦火に遭遇し社人が亡くなったため亀谷家・田中与市左衛門宣晴(勸請者)が速谷神社の親戚の縁あって天文21年(1583)8月平良村に行き、御神体を奉持して祠を建立して、速田神社として奉祭した。

江戸時代には津和野藩として、慶長検地、寛永検地などが行われた。元和3年(1617)波佐組七カ村(東谷村、西谷村、小国村、徳田村、柚根村、ハツ木村、鼠原村)3,000石として、恵喜多に波佐組代官所が置かれた。天明8年(1788)長安組代官所に、天保9年(1838)に久佐組代官所に、嘉永6年(1853)には再び長安組代官所へと移管して、明治を迎えた。

旧津和野藩街道として、鉄の道としての「笠松峠の石畳路」は、文化8年(1811)9月に鉄山関係者の出銀や地下(じげ)農民の出夫によって完成した。全長1,800mの内1,200mが1.2m幅の石畳となっており、全国第2位の長さを誇っている。石畳の中腹には、「立石」という記念碑や「大芝」という津和野藩主が領内御巡見の際に小休した場所があり、「涼みの松」も現存している。

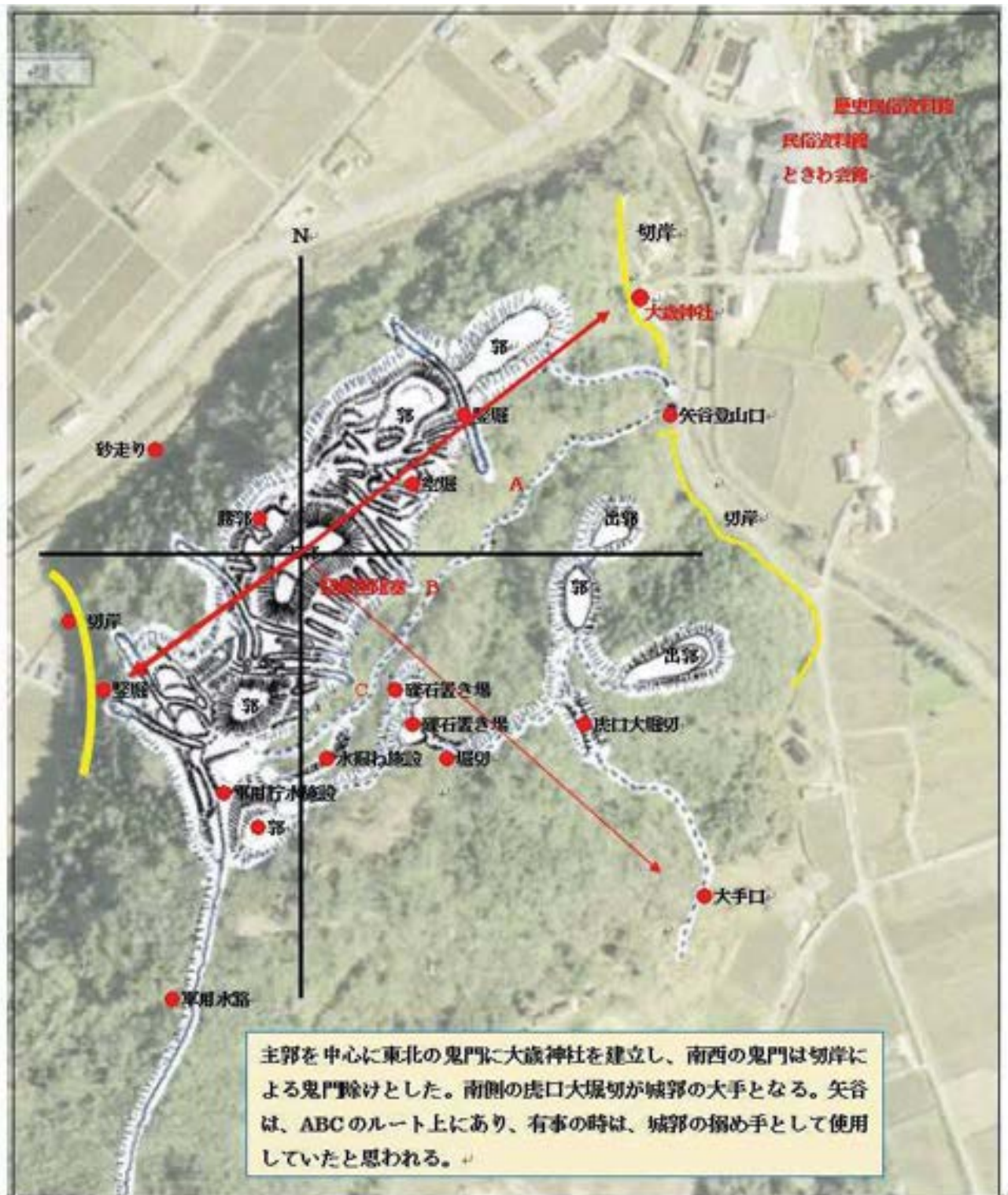
江戸時代には歌人・三浦繁女(寛楽亭遊絲と号す)、狂歌・澄川益安(溶々庵貞泉と号す)、歌人・澄川双園 明治時代にはチベット巡礼探検の先駆者・能海寛などの文化人を傑出した。

近世の生産生活用具を収集した金城民俗資料館には国指定有形民俗文化財758点、県指定221点など、3,500点の民俗資料が展示公開されている。金城歴史民俗資料館には埋蔵文化財、たたら関係資料、能海寛資料、文豪・島村抱月資料などが多数収蔵・展示されている。

今回の企画展「波佐まるごとミュージアム展」は、金城資料館を中心に半径1kmに顕在する文化財施設15カ所の歴史を学びながら巡回出来るもので、各所に看板類も整備されている。また、歌碑巡り、スタンプラリーなども楽しみながら「ミュージアム探検」を巡回されることをお勧め致します。

金城資料館に備えている、「スタンプラリー帳」は、無料で配布しております。

- 築城期** 平安末期。永万元年(1165)、神祇官領・長田別府で、黒金が年貢注文と定められた時から。神祇官河野氏が。風水に則り、大井谷宮地谷から大歳社をこの一本松城の鬼門除けで遷宮。
- コース** 矢谷登山口→矢谷水撥ね施設→軍用貯水施設(水堀跡)→武者だまり→礫石置き場→堀切→虎口大堀切→東側出郭→堅堀→郭→堅畝型阻塞→主郭→腰郭→空堀→土橋→武者走り→堅堀→郭(北側)→登山口 (所要時間：3時間)
- 特徴** 風水による縄張りの連郭式城郭。大井谷樋口から水を取り入れ水堀のある城郭。水攻めの為の水撥ね施設がある。主郭の東側には堅畝型阻塞や複雑な畝堀、礫石置き場。横矢掛、段切、城郭の裾野は、切岸に加工され、守りの城郭としている。



【城郭用語の解説】

波佐一本松城は、連郭式城郭で防御を主目的とした守りの山城です。戦の際には、3,000 人の兵士が駐屯しないと守れない規模の城郭です。以下、この城郭に関連する城郭用語を解説します。

「犬走り」いぬばしり：郭の側面や郭の斜面に水平に走る細長い削平部分で帯郭をさらに細くしたもの。

「畝堀」うねぼり：空堀の底に畝状の凹凸をつけ、堀底を歩くのを困難にした堀。

「帯曲輪」おびくるわ：腰曲輪の一種で、帯状に細長い郭を囲むような曲輪。巾の狭いものを犬走りという。

「切岸」きりぎし：人工的に敵が登り難い様に山の斜面を削り斜面や絶壁とした箇所。波佐一本松城では、南西の鬼門除けとして作られた。また、城郭の東側 200m にわたり 5m の切岸としている。

「軍用水路」ぐんようすいろ：波佐一本松城は、水の手施設を構えた城郭で、2Km 南方の大井谷（大樋口）から水路を引き、城内の水堀に注いでいた。

「腰郭」こしぐるわ：主郭に隣接して置かれた半円状に付けた小さな郭、腰の部分に付くような形であるために腰郭という。波佐一本松城では、主郭の西ビラに 2 箇所の腰郭がある。

「虎口」こぐち：曲輪の出入口、敵の侵入を防ぐための重要拠点でもあった。この城郭では、大堀切としている。

「主郭」しゅかく：城の主要な郭、本丸に該当する。

「障子堀」しょうじぼり：空堀の底に障子という土塁状の突起をつけ、堀底の歩行を困難にした堀。

「城道」しろみち：城のなかの道、大手道など。

「砂走り」すなばしり：城郭の西ビラに流れる波佐川で、川原の地名。往古、処刑場が行われた所という伝承がある。

「堅畝型阻塞」たてうねがたそさい：主郭、副主郭など重要施設に併設される堅堀。波佐一本城の場合は、堅畝の上・下部とも一方向のみの移動しかできなく、主郭の横矢掛からの攻撃が有効に働く。

「堅堀」たてぼり：台地斜面や山の斜面に等高線と直角に掘られた空堀、斜面を敵部隊が移動するのを妨害するためのもの二重になっているものや畝状のものもある。斜面上の敵の横の動きを封じた。

「段切」だんぎり：緩やかな斜面に切岸をほどこすなどして階段状に段を設けたもの。

「礮石」つぶていし：弓矢の戦の時代に、片手で握られる大きさの石を武器として急斜面に登る敵に投げつけて攻撃する石。波佐一本松城の場合は、礮石置き場が 3 箇所設置されている。

「出郭」でかく：城郭の防御能力の強化・弱点の補強・物見などの目的で作られる独立した曲輪。東側に 2 箇所ある。

「土橋」どばし：空堀を渡れるように、掘り残すことで作られた土の橋。堀に落ちた敵の移動を封じた。

「土塁」どるい：防備のために、土を盛り土居としたもので、元々は堀を掘った際の土を築き固め、堀との落差をつけて防備を固めることを目的につくられた。

「内郭」ないかく：城の中心部分であり、大規模な城では内堀などで区切られることが多い（⇔外郭）。

「縄張り」なわばり：城を築く際のグラウンドプラン、郭配置など城域の設定を意味しており、城の範囲と構成を示す。

「馬場」ばば：軍馬の訓練など行う場所、城域のなかにある場合は城内馬場というが、城域の中か城域の近くにある。城の北西に常磐山八幡宮の馬場と八幡宮裏山に野外の的場がある。

「堀切」ほりきり：尾根や舌状台地の鞍部に、敵の移動を妨げる目的で、通路を遮断するように掘られた堀。

「本丸」ほんまる：城の最も主要な郭のこと。山城の場合は主郭に該当する。

「枡形虎口」ますがたこぐち：枡状の四角い形に土塁や石垣を配置して、その一辺に開けられた開口部から出入りし、四角い空間のなかのもう一辺から郭内に入るように、最初の入口を入った敵は、郭の入口との間にある空間（枡形）で、四方から攻撃にさらされるように、防備を強化した虎口食い

違い虎口の発展形である。

「的場」まとは：弓矢の訓練をする場所。城郭の北西に常磐山八幡宮の裏山に野外的的場がある。

「水の手」みずのて：井戸のこと。昔から水の手を占領されたり、毒を入れられるなどして飲水を断たれて落城した悲話が多い。

「水撥ね施設」みずはねせつ：矢谷口から 400m 谷を登ると「く」の字に曲がった石積みの土塁がある。50m 上方の水堀から放水すると、この水撥ね施設で水の流れがコントロールされるように設置されている。

「水堀」みずぼり：水をたたえた堀、古くは濠と書くことがあった。

「武者溜り」むしゃだまり：城内に入った敵に対して、敵に気付かれぬように伏兵を控えさせて、事に備えるための郭。水堀の南側郭に位置する。

「武者走り」むしゃばしり：堀の中や土塁の上の細い通路・堀の内側につくる平地など、連絡その他で、兵が敵に妨げられずに往来できる空間。犬走りと同義語。

「櫓台」やぐらだい：櫓の基礎となる広い土壇、虎口の脇や屈折部などで上底が広がった土塁、櫓が実際に構築されたか否かに関わらず、上記の土壇や大きな土塁等を櫓台と呼ぶ。

「矢谷」やだに：水攻めの出来る谷筋。有事の時は、波佐一本松城の搦め手になる。

「横堀」よこぼり：城郭の周囲を水平にとりまく堀。

「横矢掛」よこやがかり：侵入してくる敵の側面から矢を射られるようにすること、さらにそのために土塁に張り出し部。土塁・石垣の屈曲部（側面射撃用陣地）。略して横矢。分や折歪をつけるなどする作事をもって「横矢を効かせる」という。

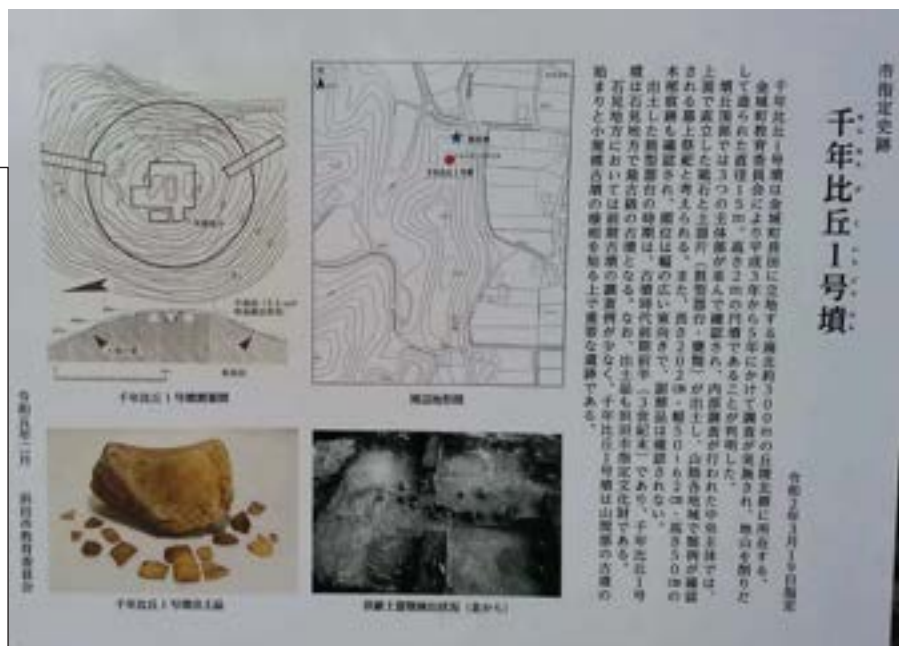
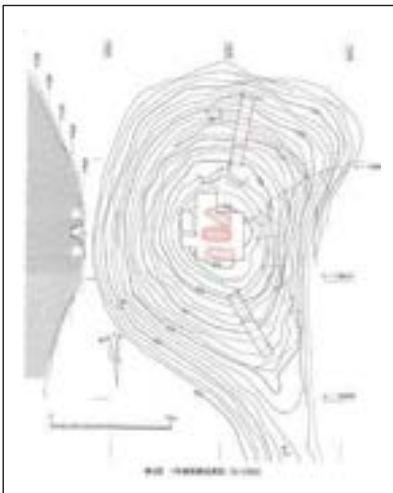


水堀と土塁



武者走り

千年比丘 1 号墳



市指定史跡『笠松峠の石畳路』



この石畳路は文化8年(1811)に完成した旧津和野藩時代の奥筋街道で、「鈿と紙の道」である。頂上までの全長 1,800m の内、畳石部分は 1,200m と、全国第2位の長さを誇る畳石路である。

畳石路の幅 1.2m 急な場所は鼻先を浮かせて階段状とし、馬の蹄が滑らないように施行されている。鈿の盛んだったこの時代は、井野村から砂鉄の運搬に馬が使用され、蹄で道が損傷するため、畳石が敷設された。

【参考資料】

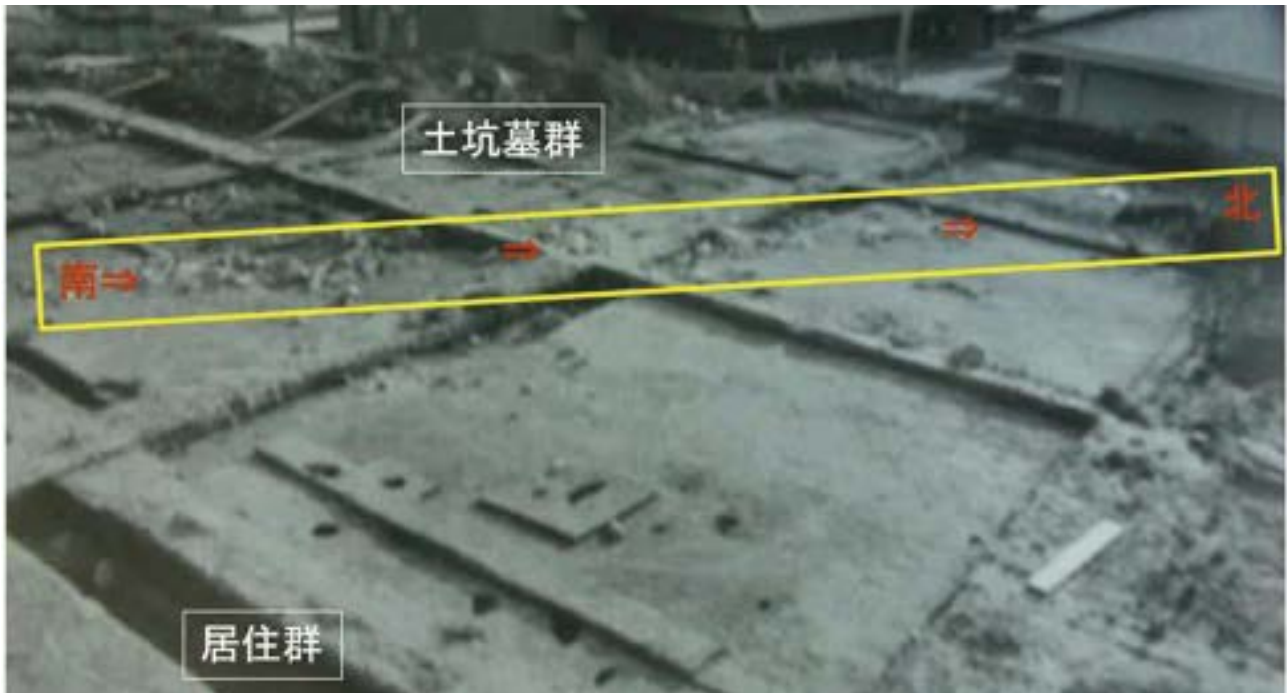
波佐地方は、たたら製鉄の産地として古来、長田別府、長田保、波佐庄としての荘園地であった。江戸時代に天領から津和野藩の飛び地として編入された。当初、波佐組(7ヶ村) 3,000石の時代には181年間、波佐代官所が設置されていた。浜田藩の田の尻に津和野藩の蔵屋敷が設置されるまでは、この畳石路の奥筋街道を経て紙年貢(石州半紙)を納めていた。また、井野村の諸谷鉄穴場や横山鉄穴等から長安の中場を経て砂鉄を運び、八幡の中場へ馬で運搬するため、蹄で山路が掘れるため、鉄山関係者や笠松山の入会山(草刈り場)を所有している地主や名組25軒の出資により文化8年9月に畳石路が完成した。

この笠松山は鉄穴流しが行われ、真砂土の中から石英閃緑岩が洗い出され、この岩石を用いて畳石に施行したものである。道中には、鉄穴水路と畳石路が交差する場所があります。県道の淀屋の登山口から頂上までの全長 1,800m (高低差 350m) のうち畳石路は 1,200m の距離で全国第2位の距離を誇るものです。カーブの外側には、縦の排水路がもうけられ、急傾斜の場所には階段状の石積みが施されています。中間地点には、畳石の完成を記念する立石(たていし)が設置されて、休憩所にもなっています。

津和野藩主は2度、領内巡検で通行された記録があり、石州口の戦いで津和野藩の家老が笠松峠を越えて帰藩したことも記されている。

七渡瀬Ⅱ遺跡&長田郷遺跡

縄文時代後期、今から 3,500 年前からの遺跡です。波佐の中心地として古代から栄えた土地です。縄文・弥生・古墳・奈良時代の生活の住居跡として、竪穴式住居跡が国道沿いに発掘されました。南北に石列が施され、死者の埋葬された場所との結界が作られ東側が生活の場と区別されていました。



○印の箇所が、古墳時代の住居址の上に奈良時代の住居址が複合遺跡として発掘され。

波佐まるごとミュージアムの見どころ

笠松峠の畳石路

亀岩／立石（記念碑）／大芝／涼みの松／水の横側（地蔵堂）／笠松鉄穴流し跡／全長 1800m

常磐山八幡宮

みんなで守る郷土の自然地域「常磐のカシ林」／県指定天然記念物「常磐の大杉」5 株／奉納絵馬額 16 面／能海寛詠歌碑 2 基／八卦占い／手水鉢

能海寛のふるさと

能海寛顕彰碑／歌碑／略歴碑／浜田市指定天然記念物「ハクモクレン」／天頂山浄蓮寺／鐘楼門／薬師山の歌碑／本堂の狭間

普明山永昌寺

尼子経久公の墓／浜田市指定天然記念物「大杉」1 株

波佐一本松城

浜田市指定史跡／竪畝型阻塞／礫石置き場／水堀／水撥ね施設／主郭／L 型武者走り

浜田市金城資料館

金城民俗資料館

波佐の山村生産用具 758 点（国指定）／波佐の山村生活用具 221 点（県指定）／緒職用具など総点数 3,500 点収蔵

金城歴史民俗資料館

能海寛歴史資料 357 点（市指定）など 3,000 点／

鉄穴流用具／たたら製鉄用具／鍛冶屋用具／たたら関係古文書・たたら絵図(市指定)／など 6,600 点／埋蔵文化財 3,000 点（「金田 1 号墳出土品」市指定）／（「千年比丘 1 号墳出土品」市指定）

郷土の傑人顕彰板

郷土の偉人チベツト探検家・能海寛と日本近代劇の創始者・島村抱月の顕彰板（略歴碑）で、昭和 51 年 11 月 28 日に波佐文化協会の発起により町民の浄財(378 名)で完成した。抱月の生誕地を調査・研究して、確定した事によって、この顕彰板が建立された。

たたら製鉄関連遺跡

鍋滝鉦／金屋子神社／カツラの樹（市指定天然記念物）／泊小屋鉦／栃下鉦／桂迫鉦／田野原鉦／二子山鉄穴／大潰鉄穴／

大人・小人伝説

波佐には、古くから大人(おおひと)・小人(こひと)伝説が伝わっている。大人弥五郎伝説は、九州南部の宮崎・鹿児島地方に伝わっている伝説であり、全国的には、ダイダラボッチと称する巨人伝説もありいずれも「おおひと」と呼ばれている。

これらの大人・小人伝説は、古代のたたら製鉄に関連する伝承であると考えられる。まず、大人伝説とは、たたら集団を指し。小人伝説とは、鍛冶屋集団を指すものと考えられる。

足跡の大きさは、長さ 37.5 cm、横巾 15 cm ほどの大きさである。

巨樹・巨木・名木めぐり

常磐の大杉 5 株（県指定）／普明山の大杉（市指定）／ハクモクレン（市指定）／長田のエノキ（市指定）／千谷のモミジ（市指定）／若生のケヤキ巨樹群（市指定）／鍋滝の大カツラ（市指定）／若生のモミジ（市指定）／不豆喰のヤブツバキとケヤキ巨樹（市指定）／光超寺の大イチョウ（市指定）

速田神社と亀谷家

安芸の国、速谷神社の御神体を祀る神社